

# もとやま

# 社協だより

2019.2

vol.75

クリスマスチャリティーコンサート



●クローズアップ十代  
高校生がダンスで地域を盛り上げます！  
(P14.15.16)

防災マップ全国コンクール

吉野小学校 消防庁長官賞を受賞

(P2~3.4)

- 2 3 4 吉野小学校防災マップ
- 5 北山西カフェ
- 6 7 もとやまっ子のイラスト包装紙 (配食サービス)
- 8 9 クリスマスチャリティーコンサート
- 10 権利擁護センター さくら

- 11 社会福祉大会
- 12 「ふきのとう」へ厚生大臣感謝状 / 老人クラブ
- 13 赤い羽根共同募金・会員 / 善意のご寄付
- 14 15 16 クローズアップ十代

◎特集

# 防災マップに消防庁長官表彰

全国  
566  
団体が参加  
9組に表彰状

**みんな安心 避難路マップ**

**緊急時の連絡先**

本山町役場	76-2113
樺北消防署	76-2806
本山警察庁舎	76-0110
吉野公民館	82-0452
寺家公民館	82-0837
吉野小学校	70-1311

**防災マップのまとめ**

今年の夏は、大規模な豪雨や台風の影響で、全国各地で災害が発生しました。その被害は、大規模な地震や大規模な火災に比べて、比較的少ないながらも、地域によっては甚大な被害をもたらしています。また、災害発生時の避難経路が不明な地域も多く、避難に苦労している方が多く見られます。そこで、地域住民の安全を確保し、災害発生時の避難をスムーズに行うための防災マップを作成しました。この防災マップは、地域の避難経路や避難場所、危険箇所などをわかりやすく示しています。また、災害発生時の対応方法や、避難時の注意事項なども記載しています。この防災マップが、地域住民の安全に貢献し、災害発生時の避難をスムーズに行うための助けになれば幸いです。

**寺家チーム**



(寺家チーム)

吉野小学校の5、6年生が作成した防災マップが第15回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」で入選しました。子ども達は2チームに分かれて応募し、『寺家チーム』は上位9点に入る消防庁長官賞、『吉野チーム』は佳作を受賞しました。

今回で15回目を迎えた全国コンクールには、2,865作品の応募があり、高知県内では唯一の受賞となりました。

# 吉野小学校 5・6年生が快挙!!

# 「フィールドワークの集大成」



(吉野チーム)



吉野小学校では、防災教育において度重なるフィールドワークを行ってきました。これを活かして作成した防災マップに込めた思いについて、6年生2人に話を聞きました。



## 大変だったこと

「ブロック塀を調べるとき、鉄筋探知機を使ったときにブロック塀が凸凹してエラーが何回も発生したので、(塀の中に鉄筋が入っているかどうか)が分かりにくかったです」昨年の大阪府北部地震では、小学生がブロック塀の下敷きになっ

て死亡する事故がありました。これを受け、ブロック塀は念入りに調査したと言います。しかし、機械を用いた調査はコツが必要だったようです。

「車椅子を押すときに、坂道になるときつくて…」と人が座っている車椅子を押しながらのフィールドワークも行いました。押す側になったからこそ、気付くことがあったようです。



## 見てほしいところ

「寺家にはブロック塀が多いから、地震が起きて倒れてきたら通れない道が出て

くるので、そういうのを見て分かっちゃってほしいです」

マップ作成を通して発見出来たことは、自分たちだけではなく地域の方々にも知ってほしい。そんな思いを感じる発信力を持つ力強い言葉でした。

## 学んだこと

「車椅子の体験をしてみて、タイヤがグレーチングの穴に挟まってしまったりか、そういったことを高齢者等の視点に立って気を付けていきたい」実際に体験したことで、車椅子を必要とする人の視点を学び、今後に生かしていきたいと思ったそうです。



(塀の中の鉄筋を確認中)

# 防災チェックの現場



「写真と言葉を一致させることです」  
 フィールドワークではたくさん調査し、写真を撮りました。見る人にとってより分かりやすいマップ作りを心がけたと話してくれました。

気を付けたこと

校長先生は、この防災教育を進めていくうえで、子ども達に『なぜ? どうして?』の気持ちを持ってもらうことを大切にしています。「子ども達が、普通に歩きよった道が危険だということを知る。危険と知ったうえで、どういうふうにしたら良いのかを考えながらその道を通っていく、ということがこれから大事になる」と話します。子ども達の「感じる力、考える力」には無限の可能性を感じます。

また、「地域学習」について、「地域から学び、返すこと。そして地域から知るための学習」であると言います。地域は生活

常に『なぜ? どうして?』の気持ちを



北岡 義彦 校長先生

の一部であり、学びの場にもなる。地域の中にはたくさんの教材があるということが分かりました。



子ども達が地域に出て学んだことを、学校の中だけに留めず地域へ発信し、宝へと形を変える。子ども達だけでなく、結果として周りの大人も一緒に学ぶことが出来る。これこそが防災教育、地域学習と言えるのではないのでしょうか。

# 北山西元気カフェへ来てみいやあ♪

## みんなが集まる“場”を

毎月第3水曜日、北山西公民館からはにぎやかな声が聞こえてきます。

カフェが始まったのは、昨年9月。元々『北山西の人たちで集まってモーニングみたいなのが出来たらいいねえ』との声がありました。それが現在の“北山西元気カフェ”となり、コーヒー1杯100円、コーヒーとモーニングのセットが300円で提供されます。

モーニングということで、開催は午前中。名前の通り、北山西の住民を対象として始まり、宣伝も北山西地区にのみ行っていましたが、今では北山西以外の方も多く足を運んで来ています。昨年12月には他の地区の方々が視察に来るなど、町内各地に口コミで広がってきているようです。



## 男性がよく集う

カフェに来る人の多くは地区の男性です。テーブルを囲み、話す。それだけでカフェの場がにぎやかになり、“元気カフェ”という名前がぴったりの空間になります。他の地区の方も、その光景には驚くと言います。



## カフェは生きがい

カフェ運営側の名物人“澤田明美さん”。今はこのカフェが生きがいとなり、「地域の人が集まって笑顔が見られる事が嬉しい、日々充実している」とにこやかに話します。

こうした地域の集いについて、澤田さんは「いかに本山に集まる場所がないか、そんな場を皆が欲しいという事」と言います。地区の皆さんで『とりあえず1回やってみよう、その後のことはまた考えよう』と話し合っ始めたカフェですが、定期的な開催へと発展。その要因としては、“周りの人が助けてくれる事”。澤田さんは「やりたいと思っただけ、年が寄ったら思うばあになる。皆が後押ししてくれた」と力強く話します。



## 平均年齢70歳超！まさに“元気カフェ”

澤田さんの“実現したい”という思いを形にしてくれたのは地域の力でした。運営側は、澤田さんの他に4名。60代～90代までの女性が元気に運営しています。その様子は活気があふれて元気そのもの！

皆さん、カフェに来てどんどん元気になりましょう♪



こうした地域の集いの場は、楽しく食べる、話す、足を運ぶことだけでなく、自然と地域の見守りの機能を果たしており、一石二鳥に留まらず、三鳥、四鳥…とたくさんの役割を担う大切な空間です。社協はこれからも、このような地域の宝を応援していきます！



# おとしよりに大好評！！

## お弁当に利用

『小学生が描いたイラスト包装紙』で包まれたお弁当が利用者のもとへ届けられています。この活動は、平成30年11月から本山小学校のご協力により始まりました。イラストのテーマは「お年寄りと自分」で、各自が季節感を取り入れ、一枚一枚真心を込めて描かれています。イラストを見た利用者の皆さんは、嬉しそうにお弁当を受け取っていました。



### 喜びの声（利用者より）

- こどもの絵をみることらあなくなってきたき、嬉しい。
- これはえいねえ！
- 可愛らしい。
- 切り取って部屋に飾る！
- 大事にとっておいちゅう。

嬉しかった～！



（配食サービス）

### 本山小学校2年生にインタビュー

Qイラストを描いている時にはどんなこと思いながら描きましたか？

- ・喜んでほしい。
- ・美味しく食べてほしい！
- ・笑顔になってほしい。



Q喜んでくれたことを聞いてどう思いましたか？

- ・描いてよかった！
- ・また描きたくなる。



# もとやまっ子のイラスト包装紙



集合写真左から（稲本 桜子さん、大下 みいのさん、田岡 暖菜さん、岩本 未来華さん、中山 なつみさん、石本 凜さん）

（イラストを描いている様子）



## 活動に対する思い

以前赴任先の学校で同じ活動を実施し、双方に良い影響がある事を実感したこと。また、過疎高齢化が進む中「子供たちが独居の高齢者や配食サービスを必要としている方が多数いる」という現状を知る大切さ」と、「子ども達なりに出来る範囲で何か協力していきたいという思い」がきっかけとなった。

子ども達は、それぞれ一生懸命に絵を描いており、楽しみにしている方が居られる以上今後も継続したい。高齢者からの感想など聞かせてもらえば励みになるし、子ども達への学習効果も見込める。地道な活動であるが今後も地域に貢献し、連携を図っていききたい。



上村 博明 校長先生

# クリスマスチャリティーコンサート

ありがとうございました



昨年の夏、西日本を中心に発生した7月豪雨では本山町内でも山林の斜面崩壊などにより多くの被害が発生しました。

社協では、住民有志とともに町内の被災された方々に対して義援金を贈ることを目的に「H30年7月豪雨復興支援クリスマスチャリティーコンサート」を開催しました。

このコンサートは、支えるのも町民、支えられるのも町民として、演者から観客に至るまでのほとんどが町民の皆様によるものとなりました。入場者は約90人、多くの方々に音楽を楽しんでいただき、盛会のうちに幕を閉じることが出来ました。

コンサート開催に際しまして、主旨に賛同いただき、多くの方々の支援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

また、被災者の皆様には、改めて心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い再建をお祈りいたしております。



☆ご協賛ありがとうございました☆

高知県断酒新生会 様	(有)サワダ自動車 様
高知銀行 様	四国銀行 様
喫茶 トモ工 様	大石土建株式会社 様
さくら司法書士事務所 様	森文具店 様

チケット売上金

58,000円

寄付金

57,002円

協賛金

130,000円

計 245,002円

おかげをもちまして、収益金は238,162円となりました。

(合計245,002円から著作権料・設備費6,840円を差し引いた額)

※コンサートの収益金は、第三者の入った配分協議を経て、全て義援金として被災者に贈ります。たくさんのご協力、誠にありがとうございました。





小野 雄基



文化協会軽音部

曾我部 巧



田岡 克章



姫流太鼓



細川 博司



(司会)



いでっち



starlight unison

(P14.15)  
クローズアップ十代  
で紹介しています!



(高校生ダンスグループ)

# 本山町権利擁護センター さくら

## 始動!!

認知症、高齢者や知的障害、精神障害等で、ものごとの判断や決定をする時に、だれかのサポートを必要としている方や親族等からの相談を受けつけています。本山町権利擁護センターさくらが解決に向け、成年後見制度や他の具体的な方法を関係者と連携して検討していきます。



H30.12.3  
開所式

## こんなお悩みをご相談ください!

・子どもがいない夫婦・・・、認知症になったらどうしよう・・・。

・知的障害のある子どもの将来が心配。

・親の介護が負担・・・。

・物忘れがひどく、お財布や通帳の管理が心配・・・。

・成年後見制度を利用したいが・・・。

・親の後見人になっているが、どうしたらいいのか？

・認知症になっても自宅で暮らして、たまには旅行にも行きたい。

例えば



### 連絡先

## 本山町権利擁護センター さくら

本山町社会福祉協議会 内

TEL 0887-76-2312



# 第36回

# 本山町社会福祉大会

## みんなで 学んで 笑った

### 地元に対する熱意!



川村 泰久さん 白石 稔さん

吉野地区代表 白石稔さん、川村泰久さんより地域福祉活動実践発表がありました。自分たちのために、自分たちで考え、自分たちで地域福祉活動を実践している吉野地区。里山保全活動を通じて、桜の植樹や、三倉大祭の名物にするための「三倉饅頭」の開発、吉野地区に人が集まる数々の仕掛けをしてきたお二人。また高知県立大学の田中きよむ教授は、吉野が取り組む活動を会場へわかりやすく説明。地域への熱い思いが会場全体に伝わりました。



(三倉饅頭)



### あなたに伝えたい、「後見じいさん」

落語家 桂 ひな太郎さんによる成年後見落語「後見じいさん」

認知症になったおじさんと、甥っこの話。成年後見制度についておもしろおかしく分かりやすい落語で披露。会場に笑いの渦ができました。



### 成年後見制度についてのパネルディスカッション

また、本山町で安心して暮らし続けるために必要な支援体制を落語家桂ひな太郎さんのコーディネートによるパネルディスカッション形式で、町ぐるみで学び合いました。権利擁護センターさくらの役割や制度の活用方法等の紹介もあり住民にとって身近な制度であるということを知ることができました。



平成30年11月22日

### 第36社会福祉大会表彰者

#### 表彰状

尾澤逸子 様

川村武男 様

松岡恭子 様

#### 感謝状

高石 静 様



# 「ふきのとう」へ厚生大臣感謝状

絵手紙を1年間になんと！850枚！！

ボランティア功労者に対する厚生労働大臣感謝状を受賞！  
今年で活動16年目を迎えるボランティア団体ふきのとう。  
この度、長年にわたるボランティア活動の功績が高く評価され、厚生労働大臣より感謝状を受賞しました。

ふきのとうでは、80歳以上で一人暮らしの方への絵手紙送付を中心に活動しています。（結成当初には、自分達で焼いたクッキーを手土産に、一人暮らしの方への訪問活動も行っていました！）現在、一年間に作成している数はなんと850枚！毎月、会員で相談して季節の絵を決めるところから取り組んでいます。

感謝状授賞式に参加した会員からは喜びの声と共に「また頑張らなあいかんね！」と今後の活動への想いが聞かれました。



## 本山町老人クラブ連合会

グループ活動として、新たに「居酒屋くらぶ」「旅行クラブ」が活動を開始！

### 旅行クラブ

旅行クラブでは、実際に旅行をするだけでなく、行先や内容といったところからメンバーで決めていきます。クラブとしての旅行は3月に実施予定です♪

### 居酒屋くらぶ

その名の通り、みんなで楽しくお酒を飲む活動をしています。現在部員は25名で、本山町内の居酒屋を巡っています。今後はアルコールに関する勉強会も併せて行っていきます。また、最大の目的は“地域活性化”！そこで・・・



### 本山町老人クラブ、インスタグラム（SNS）始めました！

こちらで地元のお店の美味しい物などをアピールし、少しでも地域活性化につながれば・・・！と考えております。そのほかの老人クラブ活動も載せておりますので、ご興味のある方はぜひご覧下さい★

本山町老人クラブ連合会 インスタグラムアカウント：@motoyamarouren  
連絡先：本山町老人クラブ連合会 事務局 0887-76-2312



QRコード



老人クラブ会員随時募集中!!

# 本山町社会福祉協議会会員のご協力について

本山町社会福祉協議会では、「もちよってともに築こうやさしさのあふれるまちもとやま」をめざし、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる「住民が主体となった福祉のまちづくり」を進めていくために、民生委員児童委員、各ボランティア団体の方々と共にさまざまな活動に取り組んでいます。この福祉活動への財源は、町補助金や共同募金配分金などのほか、住民の皆さまからの会費収入によるものです。

今後も、一層充実した地域福祉活動を展開して参りますので、社会福祉協議会の各事業にご理解をいただき、ご支援、協力をお願いします。

会員区分	個人会員	500円住民の各世帯に加入をお願いしています。
	賛助会員	1,000円社協役員、民生委員児童委員に加入をお願いしています。
	団体会員	5,000円福祉施設に加入をお願いしています。



## 赤い羽根共同募金のお礼



### 高知県共同募金会本山町支会

今年度も10月1日から12月31日まで全国一斉に実施されました「赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金運動」では、戸別募金、法人募金、学校募金、職域募金他、多くの皆様にご協力いただき、ありがとうございました。皆様からいただいた募金の約70%が平成31年度配分金として交付され、町民の皆様の福祉に役立てられます。



平成30年度本山町の募金のご報告	
下記のとおり皆様にご協力頂きました。	
戸別募金	712,950円（町内各世帯）
法人募金	90,000円（24法人）
職域募金	107,475円（本山町役場、嶺北中央病院職員一同、本山町民生委員児童委員協議会、本山町社協）
イベント募金	15,786円（産業文化祭）
学校募金	19,855円（3校）
歳末募金	66,632円（町内各世帯、産業文化祭）
その他	2円（預金利息）
合計	1,012,700円（H31.1.23現在の状況）

- ☆平成30年度に赤い羽根共同募金配分金の交付を受けた町内のボランティア団体☆
- ・どんぐりボランティア「本山の会」 ・ボランティア「じゃがいもの会」
  - ・シルバー介護士「ふきのとう」 ・本山町老人クラブ連合会 ・本山町婦人会
  - ・嶺北こども劇場 ・吉野ふれあい花壇 ・本山町社会福祉協議会

### 善意のご寄付

（平成30年8月～2月）

・横山康二様

地域福祉活動に活用させていただきます。  
誠にありがとうございました。



# 産業文化祭



## 愛しています！ 嶺北の燃える7人物語

星よりも輝く  
 高校生ダンスユニット大活躍  
 今回は、嶺北高校生の若さ溢れる活動にクローズアップします。彼らの初めての舞台は、昨年の本山町産業文化祭。この日の出演者の中でひと際目を引きました。キレのあるダンス、チームワークの良い立ち替わり、それに伴う会場の盛り上がり。これがきっかけで昨年12月に開催された「クリスマスチャリティーコンサート」へ出演。そこでも、彼ららしさ満載の演目で会場を沸かせてくれました。その名も「Starlight union」(スターライトユニオン)。高校1年生2名、2年生5名の7名で活動する彼ら取材しました。



### 同じ思いを持つメンバーたち

昨年夏、本山さくらでよさこいに参加したメンバーで結成。よさこいに魅了され、地元で今年によさこいに出場することを目標としています。現在は地域での活動が中心ですが、将来的には高知市内でのイベント出演など、幅広い活動を目指しています。また、学校内では同好会を結成すべく、実績を積み重ねている最中です。

日々の活動では、時間を忘れて夢中で練習し、話し合っている際に「やりたい事を同じ思いを持つ者同士でやれてるってすごいと感じた」と改めて充実感を覚えるそうです。



# クローズアップ十代

クリスマスチャリティ



## 試行錯誤の挑戦

グループ名に込めた思い

スターライトユニゾンには、「何億光年という星の光の長さのように、自分たちの活動も長く続くように」という意味があり、卒業してもずっと続いてほしいという思いが込められています。

決めポーズは、五つの角を持つ星マークの一角と、光の尾を引いて空を流れ落ちてくる星の様子を手で表現しています。



地域の有名人?!

これまでの活動を通して、「皆で案を出して、曲や衣装、演出に全部メンバーが関わっていくのでステージが作られていく事に関してすごくやりがいがある」「人と関わるってすごく良い事やと思う」「拍手をもらい、『良かったよ！』って言うってもらえて楽しかったのが1番」と話します。試行錯誤した活動が彼らにとって良い影響を与え、達成感に繋がっているようです。またイベント以降「町やスーパーで地域の方に声を掛け

ていただいた」と話し、少しずつ地域の有名人になりつつあるのではないかと感じます。

活動を成長に

人前に立つ事について、メンバーの皆さんからは「恥ずかしい」という声がかれましたが、「舞台に立てばそんな雰囲気を感じさせることなく、堂々とステージを盛り上げます。MC担当でリーダーの式地さんは、「自分はずごく人見知りで、大勢の前に立つたら喋れなくなって…そういう事の克服にも良いがやなと思う」と話す姿はたくましく、自信ものぞかせていました。楽しむだけでなく、活動を通して着実に成長していることを感じます。

練習場所の確保など、これからの活動には課題もあります。しかし、若い彼らの力が大きな地域の力となっていく事に、胸が高鳴ります。これから、本山町社協は彼らの活動を応援していきます！

嶺北高校ダンスユニット starlight unison (スターライトユニゾン)

△後列左から▽田村夢叶さん(1年)、岡本聖加さん(1年)、門田誠さん(2年)、藤原拓海さん(2年)  
△前列左から▽尾澤芽さん(2年)、式地悠香さん(2年)、原夢摘さん(2年)

# カモンベイベー

# MOTOYAMA

(P14 .15)

